

令和5年度地震・津波防災訓練 (内閣府・三重県紀宝町)

実施報告書 (概要版)

三重県紀宝町について

三重県紀宝町は、紀伊半島の南東部に位置し、南は和歌山県新宮市と接している。

吉野熊野国立公園の一部であるとともに、「紀伊山地の霊場と参詣道」として、町内の「七里御浜」「熊野川」「御船島」が世界遺産に登録されている。七里御浜には道の駅「紀宝町ウミガメ公園」がある。

町の面積は約80平方kmで、北西部は紀伊山地につながる山域で、中央部には熊野川に合流する相野谷川が流れ水田やみかん畑が広がる。南東部は港湾を利用した製紙工場や製材工場などが立地している。町の人口は約1万人。

町の沿岸部は、周期的に起こる地震や津波により、過去に大きな被害を受けているため、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定され、さらに陸上において津波により30cm以上の浸水が地震発生から30分以内に生じる地域とされていることから「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」に指定されている。

町は「防災の日常化」という概念のもと、「地震・津波による死者数を限りなくゼロに近づける」を目標に、特に「要配慮者に最大限配慮した津波避難対策」「災害時応援協定市町村、防災関係機関等との連携による広域的な応援・受援体制整備」を重要課題とした対策に取り組んでいる。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：令和5年11月5日（日）午前9時、南海トラフを震源域とする巨大地震が発生。本町において最大震度7、約3分間の揺れが続き、5分後に最大11mの津波が到達し浸水想定区域が浸水。また広範囲で家屋倒壊や土砂崩れが発生し、救助事案が発生したとの想定。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和5年10月6日（金）18:00～20:00
【地震・津波防災訓練】令和5年11月5日（日）09:00～12:00
【訓練実施後WS】 令和5年11月5日（日）13:00～15:00
- 主催：紀宝町、三重県、内閣府
- 参加者数：約2,200名
- 参加機関：町内全域の自治会、自主防災組織、紀宝警察署、熊野市消防本部、消防団、建設業組合、国土交通省、陸上自衛隊、海上保安庁、等
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設訓練、炊出し訓練、等
- 訓練の特色：地震発生から5分以内に全員が屋外に出て避難開始を重点に訓練

訓練の成果

【成果】

- 「犠牲者ゼロ」に向けた地震・津波訓練のプログラムが、全町で着実に実施された。特に訓練実施前ワークショップでは鶺鴒区の「地震・津波ルールブック」の読み合わせを通し、地震・津波に向け各家庭でのタイムライン策定の重要性が認識された。
- 訓練には約2,200人の参加があり、全町で地震・津波防災に向けての機運醸成を行うことができた。また高齢者や子供連れ家族などが多く参加されており、町が重要課題と認識してきた要配慮者への最大限の配慮、そして今後の若年層の防災活動への参画に向けて明るい要素が伺えた。
- 訓練実施後ワークショップで論点となった、新しい医療拠点の新設などの検討を来年度以降行っていくことを通じて、本町における「犠牲者ゼロ」の目標達成が近づく方向性が見えてきた。

【課題】

- 今回、一部の海岸沿い地域で実施された「家族と私の命を守る地震・津波タイムライン」の作成への参画に、訓練参加者の多くが肯定的であることをふまえ、他地域にも同タイムライン作成を広げていくことが望まれる。
- 全町での発災時情報把握には今回のような情報システムの活用が欠かせない。訓練時だけでなく実災害時でも機能する運用を普段から確保していく必要がある。
- 今後は世界遺産である熊野古道などへの外国人を含む多くの観光客の増加が予想され、紀宝町への訪問客も増えると想定される。防災に係る啓発や町内滞在者への注意喚起での外国語対応も望まれる。

10月6日（金）18:00～20:00 訓練実施前ワークショップ

・町役場近辺に位置し海岸に面する鶉殿区の「地震・津波ルールブック」の読み合わせを行った。同ルールブックは命を守る行動スケジュールである「地震・津波タイムライン」を各家庭単位で書き足して完成となる。

・アドバイザーからは、改めて「犠牲者ゼロ」を目指すために停電への備えや避難タワーなどの整備とともに、今回参加されていない住民の方への参画を引き続き働きかけるべきことが強調された。

▼防災専門家
（東京大学松尾客員教授）



▼ワークショップの様子



11月5日（日）09:00～12:00 実動訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練）

・9時の訓練開始の防災行政無線でのアナウンスとともにシェイクアウト、そして揺れが収まった9:03から地区ごとの避難所への避難訓練が行われた。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練の様子



・救護所として指定された避難所では、トリアージを行い、応急処置や重症患者の災害拠点病院への搬送の訓練も実施された。

▼救護所運営訓練の様子



▼避難所の様子



・16箇所の避難所では炊き出し訓練が実施された。

・警察や消防団による家屋倒壊現場での救助訓練や倒木撤去訓練、海上保安庁ヘリコプターによる救出訓練なども行われた。

11月5日（日）13:00～15:00 訓練実施後ワークショップ

・地震・津波防災訓練全般の振り返りを、シンポジウム形式で実施した。

・アドバイザーからは今回の訓練のキーワードとして「連携」「地域孤立、分断（にどう対応するか）」「若年層の参加」が挙げられた。

・会場の参加者からは、子ども主体の訓練の実現や、子どもが率先して逃げるよう意識づける必要性について意見があった。また新しい医療拠点の建設についてもその必要性を認識する声が大きかった。

▼ワークショップの様子

